

厚生労働科学研究費補助金（認知症政策研究事業）  
分担研究報告書

疾患別認知行動療法プログラムの開発研究

研究分担者 鈴木麻希

大阪大学大学院連合小児発達学研究科行動神経学・神経精神医学 寄附講座講師

**研究要旨**

**研究目的：**本研究では、認知症の家族介護者（family caregiver: FC）のための「疾患別認知行動療法（CBT）プログラム」の作成を目的とする。ただし新型コロナウイルス感染症流行下でも使用可能なプログラムとなるように内容や構成を配慮する。

**研究方法・結果：**①当初の計画から非対面方式を主とした個別セッションへと変更し、代わりにセッション数を増やすことで効果増強を図った。内容は疾患特有の症状や行動・心理症状（BPSD）への対応法に関する理解を促進する「疾患教育」、セルフケアの重要性とその実践法に関する理解を促進する「CBT」で構成した。②上記のプログラム構成をベースとし、大阪大学医学部附属病院神経科・精神科に通院中の意味性認知症患者の FC4 名に対して予備的に家族介入を試みた。FC のプログラムへの満足度評価は高く、その要因として原因疾患に特化した内容であったことが考えられた。

**まとめ：**with コロナ時代に適したプログラムとするために、オンライン方式を採用することで、幅広い FC が時間や距離の制約を受けずに参加可能となる等、研究遂行上、新たなメリットが見出された。また疾患別に特化した個別性の高いプログラムであることが重要な点として挙げられた。来年度は本プログラムと「パーソナル BPSD ケア電子ノート」を組み合わせた FC に対する教育的支援プログラムの有用性検証を行う予定である。

**研究分担者・協力者氏名**

**所属機関及び職名**

**研究代表者**

池田学・大阪大学精神医学・教授

**研究分担者**

山中克夫・筑波大学人間系・准教授

**研究協力者**

木下奈緒子・University of East Anglia・准教授

**A. 研究目的**

本研究は「パーソナル BPSD ケア電子ノート」と「疾患別認知行動療法（CBT）プログラム」の 2 つのコンポーネントからなる認知症の家族介護者（family caregiver: FC）に対する教育的支援プログラムを開発し、その有効性をランダム化比較試験（RCT）で検証する研究プロジェクトの一部を担うものである。今年度は新型コロナウイルス感染症（以下、新型コロナ）流行下でも使用可能な疾患別 CBT プログラムへと内容を修正・

強化し、プロトコル作成に至ることを目的とした。

## B. 研究方法

### 1. 疾患別 CBT プログラムの作成

新型コロナ流行に伴い、当初計画のプログラムの修正が必要となった。そこで研究チーム内で議論を重ね、対面方式の集団セッションから、初回と最終回を除くセッションを非対面方式(オンライン)とした個別セッションへと変更することとした。また対面方式で実施できなくなったことによる効果減弱を補うため、セッション数を4回から6回へと増やすこととした。さらに本プログラムへの応用行動分析学に基づいたABC分析の組み入れ可能性について学術的および実践的な観点から検討した。以上の変更点を考慮したプログラム構成を決定し(詳細は研究結果に記載)、各セッションのアウトラインおよびプロトコルの作成を進めている。

### 2. 意味性認知症患者の FC を対象とした予備的な家族介入の試み

大阪大学医学部附属病院神経科・精神科に通院中の意味性認知症患者の FC を対象に、日常診療の一貫として、本研究のプログラム構成(詳細は研究結果に記載)をベースとした家族介入を予備的に試みた。なお当院外来で実施する都合上、対面の集団セッションとした。プログラムに対する FC の満足度を日本語版 Client Satisfaction Questionnaire-8 項目(CSQ-8J; 立森・伊藤, 1999)で評価した(4件法、0~32点で得点が高いほど良い)。また感想をアンケートで聴取した。

#### (倫理面への配慮)

今年度実施の内容は日常診療の一環として行われ、臨床研究に該当しない。ただし大阪大学医学部附属病院倫理審査委員会で承認を受けた包括同意に基づき、診療で得られた個人情報は匿名化して取り扱った。

## C. 研究結果

### 1. 疾患別 CBT プログラムの作成

研究チーム内で議論した結果、以下のプログラム構成とすることに決定し、各セッションのプロトコル作成に取り組んでいる。

#### 1) 時間・回数・方法

1回50分のセッションを2週間に1回、合計6セッションを実施する。個人セッションのみで、初回と最終回は対面式、それ以外はオンラインとする。

#### 2) 各セッションの内容

疾病教育を3セッション(「原因疾患の中核症状・BPSDの理解」「BPSDへの対応方法」「社会資源の活用」)、CBTを2セッション(「負の思考や感情と付き合う方法」「自分のための時間を増やす」)、振り返りを1セッションで構成する。

### 2. 意味性認知症患者の FC を対象とした予備的な家族介入の試み

参加者はFC4名であった。プログラムに対するFCの満足度は高く、CSQ-8Jの得点は平均25.5点で、全ての項目で「とても良い」「良い」の評価であった。またFCの感想として、「(疾病教育では)当てはまる症状が多く、病気のせいだったんだと理解できた」「自分のために参加したと思えた」という意見や、「困り事など何を言っても他の人に共感してもらえた」とFC同士の交流をポジティブにとらえる意見が得られた。一方で、遠方から通院している、時間の確保が難し

い、新型コロナ流行などの理由から、参加を断念した FC も少なからず存在した。

#### D. 考察

本研究で作成を目指す「疾患別 CBT プログラム」の大きな特徴は、①認知症の原因疾患別に特化した内容であること、②1 対 1 の個別セッションであること、③セッションの大部分がオンラインであること、が挙げられる。

意味性認知症患者の FC を対象とした予備的な家族介入の結果から、原因疾患に特化したプログラムであることの重要性が確認された。つまり症状特徴や BPSD、社会資源などについて、FC の実体験と「当てはまる」内容が必然的に多くなることから、疾患に対する理解が促進される可能性が高い。また集団セッションであっても FC が「自分のために参加した」と感じられていたことから、個別セッションではその傾向が強まることが予想される。「パーソナル BPSD ケア電子ノート」と組み合わせて使用することで、よりその個別性が強調されるだろう。

以上から、本プログラムは FC の介護負担感や心理的ストレスの軽減、また BPSD への適切な対応や社会資源の積極的な活用につながりやすいことが期待できる。さらにセッションの大部分をオンライン方式とするため、FC が時間確保の困難さや居住地の制約、また新型コロナ流行などの影響を受けずに参加する機会の提供を実現する。したがって、図らずも先行研究 (cf. Rebecca et al, 2018) よりも幅広い FC を対象として、本プログラムの有効性検証が可能な体制となった。

#### E. 結論

認知症 FC に対する教育支援プログラムのコンポーネントの一つである「原因疾患別 CBT プログラム」作成にあたり、新型コロナ流行のため当初の計画を修正し、新たなプログラム構成を決定した。非対面方式の個別セッションへ変更することで、FC が時間確保や居住地の制約を受けずに参加可能となり、幅広い FC を対象にプログラムの効果検証が可能となる等、新しいメリットが見出された。また上記のプログラム構成をベースとして意味性認知症患者の FC を対象とした予備的な家族介入を試みた結果、原因疾患に特化した個別性の高い内容であることが高い満足度につながることを推測された。来年度はプログラムの試用を重ねて内容をブラッシュアップし、有効性検証のために RCT を実施する予定である。

#### F. 研究発表

##### 1. 論文発表

- 1) Sakuta S, Hashimoto M, Ikeda M, Koyama A, Takasaki A, Hotta M, Fukuhara R, Ishikawa T, Yuki S, Miyagawa Y, Hidaka Y, Kaneda K, Takebayashi M. Clinical features of behavioral symptoms in patients with semantic dementia: Does semantic dementia cause autistic traits? *PLoS One*. 16(2):e0247184, 2021.
- 2) 野口代, 山中克夫. 行動分析学とポジティブな行動支援の「核心」とは何か (あるいは三項随伴性の分析ツールとしての「盆栽」ダイアグラムの使い方) へのリプライ. 行動分析学研究, 35: 206-211, 2021.

- 3) 山中克夫. 理解や対応が難しい認知症の人の行動に関する呼称の変遷 —心理職が行うべきは方略の普及—. 老年臨床心理学研究, 2: 28-32, 2021
- 4) Awata S, Edahiro A, Arai T, Ikeda M, Ikeuchi T, Kawakatsu S, Konagaya Y, Miyanaga K, Ota H, Suzuki K, Tanimukai S, Utsumi K, Kakuma T. Prevalence and subtype distribution of early-onset dementia in Japan. *Psychogeriatrics*, 20:817-823, 2020.
- 5) Hashimoto M, Suzuki M, Hotta M, Nagase A, Yamamoto Y, Hirakawa N, Satake Y, Nagata Y, Suehiro T, Kanemoto H, Yoshiyama K, Mori E, Ikeda M. The influence of the COVID-19 outbreak on the lifestyle of older patients with dementia or mild cognitive impairment. *Frontiers in Psychiatry*, 11:570580, 2020
- 6) Ikezaki H, Hashimoto M, Ishikawa T, Fukuhara R, Tanaka H, Yuki S, Kuribayashi K, Hotta M, Koyama A, Ikeda M, Takebayashi M. Relationship between executive dysfunction and neuropsychiatric symptoms and impaired instrumental activities of daily living among patients with very mild Alzheimer's disease. *International Journal of Geriatric Psychiatry*, 35:877-887, 2020.
- 7) Kawakami I, Arai T, Shinagawa S, Niizato K, Oshima K, Ikeda M. Distinct early symptoms in neuropathologically proven frontotemporal lobar degeneration. *International Journal of Geriatric Psychiatry*, 36:38-45, 2021.
- 8) Suzuki M, Hotta M, Nagase A, Yamamoto Y, Hirakawa N, Satake Y, Nagata Y, Suehiro T, Kanemoto H, Yoshiyama K, Mori E, Hashimoto M, Ikeda M. The behavioral pattern of patients with frontotemporal dementia during the COVID-19 pandemic. *International Psychogeriatric*, 32:1231-1234, 2020.
- 9) Tabira T, Hotta M, Murata M, Yoshiura K, Han G, Ishikawa T, Koyama A, Ogawa N, Maruta M, Ikeda Y, Mori T, Yoshida T, Hashimoto M, Ikeda M. Age-Related Changes in Instrumental and Basic Activities of Daily Living Impairment in Older Adults with Very Mild Alzheimer's Disease. *Dementia and Geriatric Cognitive Disorders Extra*, 10(1):27-37, 2020.
- 10) 高崎昭博, 橋本衛, 福原竜治, 石川智久, 小山明日香, 宮川雄介, 佐久田静, 本堀伸, 一美奈緒子, 堀田牧, 津野田尚子, 兼田桂一郎, 品川俊一郎, 池田学, 竹林実. 意味性認知症患者の自動車運転中止をめぐる状況と対応に関する一考. *Dementia Japan*, 34:295-304, 2020.
- 11) 山中克夫, 野口代. 応用行動分析学によるBPSDの対応—ABC分析を基盤として. 認知症の最新医療, 10(4): 184-188, 2020.

## 2. 学会発表

- 1) Ikeda M. Japanese Frontotemporal Dementia Consortium. 12th International Conference on Frontotemporal Dementias, March 3-5, 2021(Online).
- 2) 池田学. 前頭側頭型認知症研究の今後の方向性. 第35回老年精神医学会, 鳥取, 2020年12月21日.
- 3) Suzuki Y, Suzuki M., Shigenobu K, Shinosaki K, Aoki Y, Kikuchi H, Baba T, Hashimoto M, Araki T, Johnsen K, Ikeda M., Mori E. A machine learning classification algorithm of EEG discriminating DLB from AD. 名古屋, 第39回日本認知症学会学術集会, 2020年11月26-28日.
- 4) 池田学. 認知症の症候学(プレナリーレクチャー). 第39回日本認知症学会学術集会, 名古屋, 2020年11月26日-28日.
- 5) 池田学. 認知症初期集中支援チームにおける精神科医の役割. シンポジウム「今、求められている精神科医の認知症医療への参画」, 第116回日本精神神経学会学術集会総会, オンライン, 2020年9月28-30日.

## G. 知的財産権の出願・登録状況

### 1. 特許取得

該当なし

### 2. 実用新案登録

該当なし

### 3. その他

該当なし